

ヤング・ギター2023年12月号増刊
2023年10月24日発行・発売 第55巻・第22号・通巻873号

Vol.
001
December
2023

Jazz. in

START UP! with NEW ORLEANS

ニューオーリンズから始めよう

この街は本当に、本気で「音楽で食っている」

～現代ニューオーリンズのクラブ＝カルチャー事情

ジャズ源流を辿る旅 ～世界を虜にしたニューオーリンズ・サウンド

外山喜雄・恵子が触れた60'sニューオーリンズの聖者たち etc.

「ロイ・ハーグローヴ 人生最期の音楽の旅」

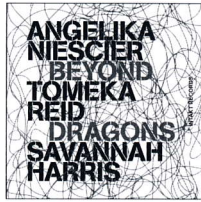
エリアン・アンリ監督×海野雅威 特別インタビュー

上原ひろみの新たなる旅“Hiromi's Sonicwonder”始動

Interviews

Joshua Redman, Jack Lee & Nathan East, Hibiki Sato, Brian Bromberg,
Masaya Yanagi, Chris Botti, Mika Ohashi, Dizzy Yoshimoto etc.

Beyond Dragons / Angelika Niescier



- ① Hic Svnt Dracones ② Oscillating Madness ③ Risse
- ④ Morphoizm ⑤ Tannhauser Gate ⑥ A Dance, to Never End ⑦ Blue Line
- Angelika Niescier (as) Tomeka Reid (cello) Savannah Harris(ds) 2023.3.17, Chicago
- Intakt CD 412

Monkey Mind / Verner Pohjola



- ① Party In The Attic ② Space Diamonds ③ Being Sentient ④ Of Our Children ⑤ Save This One for When You Need It ⑥ Avance! ⑦ Dance in The Morning ⑧ Bebe ⑨ Out of Silence
- Verner Pohjola (tp) Kit Downes(p) Jasper Hoiby(b) Olavi Ouhivuori(ds) Tuomo Prättälä (prog,syn) Raoul Björkenheim (① ⑥ :g) Jusu Berghäll (⑤ ⑥ :a-fl) Linda Fredriksson (⑤ ⑥ :bs,as) 2023.2.10-12, 3.9
- Edition Records EDN-1225

For Mahalia, With Love / James Brandon Lewis Red Lily Quintet



- ① Sparrow ② Swing Low ③ Go Down Moses ④ Wade In The Water ⑤ Calvary ⑥ Deep River ⑦ Elijah Rock ⑧ Were You There ⑨ Precious Lord
- James Brandon Lewis (ts,arr) Kirk Knuffke (cor) William Parker(b) Chad Taylor(ds) Chris Hoffman(cello) ©2023
- Tao Forms TAO 13

Orkester Omnitonal / Per Texas Johansson



- ① Klarinet 1 ② Klarinet 2 ③ Klarinet 3 ④ Orosmoln 1 ⑤ Orosmoln 2 ⑥ Orosmoln 3 ⑦ Livet i tre delar
- Per Texas Johansson (woodwinds) Joakim Agnas, Karl Olandersson, Emil Strandberg(tp) Mats Ålekint, Mats Agnelid, Lisa Bodelius, Niclas Rydh (tb) Johan Hörlen, Astrid LeClerq, Fredrik Ljungkvist, Linus Lindblom, Alberto Pinton(woodwinds) Rasmus Borgm(p) Pär-Ola Landin (b) Konrad Agnas (ds) Mattias Ståhl (vib) Johan Siberg (cond) ©2023
- Moserobie Music Production MMPCD132

輸入盤目利き音聴き

コロナ禍の複雑な感情の中で生まれたベン・ウィンケルマンの6作目

ベン・ウィンケルマン(p)の6作目は、コロナ・パンデミックが始まった2020年4月に将来への不安と、もうすぐ第一子が生まれる希望が入り混じった、複雑な感情の中で作曲された。レコーディングは、2023年5月に冷静に当時の感情を振り返って行われた。前2作はピアノ・トリオだったが、本作は9曲中5曲に、グラッド・ヘクセルマン(g)をゲストに迎え、さらにアグレッシブなプレイが展開されている(A)。

イスラエルのヤッファ出身で、現在はニューヨークを拠点に活躍するイタマル・ボロホフ(tp)は、2018年から四半音(半音と半音の間の音)をプレイできる、カスタム・メイドのトランペットを駆使し、自らのバックグラウンドの中近東音楽とジャズの融合を図ってきた。パンデミック期間中に故郷に戻り、自らの足跡を振り返って作曲した本作は、本人のヴォイスも駆使し、スピリチュアリティに富んだ作品となった(B)。

ドイツの革新派女性サクソ奏者のトップによる新トリオ

近年は米国人とのコラボが顕著で、母国で女性ビッグバンドも率いるアンゲリカが、過去のトリオ作で共演しているリード、およびアルバムでは初共演のハリスと組んだ女性トリオをお披露目。全曲自作で固め、即興的運動神経に長けたミュージシャン同志ならではの、スリリングで緊張感に満ちた演奏を堪能。特に新進気鋭のニューヨーカーでもあるハリスの、シャープでしなやかなドラミングが、アンゲリカと好相性を聴かせるのが収穫。期待できるトリオの登場だ。(杉田)A

フィンランドの実力派トランペッターが打ち出した新機軸

母国2名+英国人+デンマーク人によるカルテットのデビュー作。すでに各自のプロジェクトで有名なメンバーを揃えただけでも魅力的だが、加えてポーヨラが企図したのはプログラミングやシンセの電気的要素を含むサウンドであり、その点に表現領域の拡大を目指した意欲を感じさせる。さらに3人のゲストをフィーチャーしたのも特色で、母国の新世代女性バリトン奏者フレデリクソンの起用に拍手。70年代マイルスを連想させるビョルケンハイムとの⑥もいい。(杉田)C

近年、評価急上昇中のサクソ奏者によるコンセプト作

2021年発表作『Jesup Wagon』でデビューしたレッド・リリー・クインテットの第2弾は、“ゴスペルの女王”マヘリア・ジャクソン(1911~72)のレパートリーを集めたトリビュート作。少年時代にマヘリアの曲を教会で演奏し、祖母との所縁もあるルイス(1983~)にとって、アルバム全体がスピリチュアルなムードに包まれている本作の制作は必然だったのだろう。アイラーやオーネットを連想させる場面が興味深い。ジェームス・カーターの後継者的地位を確実視。(杉田)A

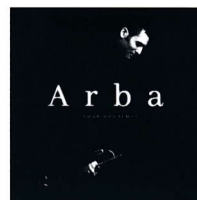
スウェーデンのベテラン管楽器奏者が取り組んだ大編成作

正統派から革新系までの幅広い音楽性を誇るヨハンソンが、2020年のジャズ祭でデビューした楽団で制作。ストラビンスキーやバルトークと、グッドマンやハーマンの共同作業実績を参照した本作は、クラシック~現代音楽の器にジャズの即興演奏を乗せた趣があり、マイルス&ギルのクールネスに通じる要素も散見。ヨハンソンのクラリネット3種類をフィーチャーして、その魅力を多角的に浮き彫りにしたのも聴きどころ。ジャズ史の成果を踏まえた制作姿勢に共感する。(杉田)A

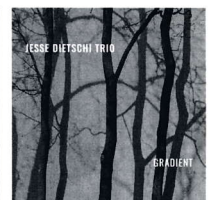
トロントのミュージック・シーンで、ジャズだけでなく、トロント交響楽団やカナディアン・オペラ・カンパニーのコントラバス奏者としても活躍する、ジェシー・ディーチのピアノ・トリオ作品。クラシックに基づいた確かなテクニックで、ジャズと現代音楽を繋ぐチェンバー・ミュージック的なアプローチを聴かせてくれた。ディーチのアルコが、アンサンブルの中で強い存在感を放っている(C)。(常盤武彦)



A 『Heartbeat』/ Ben Winkelman(OA2 Records OA2 22217)



B 『Arba』/ Itamar Borochov (Greenleaf Music GRE-CD1103)



C 『Gradient』/ Jesse Dietschi Trio(JDM-2023-1)